

ずいそう

春の思い出

山本将登



今までの人生の中このような企画に投稿させて頂いた経験が無く、どのような事を書けばいいのか全く頭に浮かばない。私自身特にこれまで建設業界で何か貢献した実績もなく、建設機械施工誌を購読される皆様のお役に立てるような経験を語れる訳でもないのといったい何について書くか悩んでいる時にこのコロナ禍が世界中に大きな影響を及ぼし、中でもアメリカ国内の状況が大きく変化していくのを令和2年2月及び3月の滞在中に目の当たりにしながら記憶に蘇ってきた、春から夏にかけての小生のアメリカ高校生生活の思い出について書かせて頂きたいと思う。

私は高校時代4年間をアメリカで過ごした。日本という中学3年がアメリカの高校1年（アメリカでは小学校から学年を数えるので9年生）なので、4年間になるのである。4年間のアメリカ生活は非常に有意義で楽しい思い出ばかりであった。1年目はもちろん、ホームシックにもなり日本に帰りたくて広大な大空の夕焼けを眺めながら遠い空の向こうにある我が国を恋しく思い泣いたこともあった。しかし、数か月経って言葉もある程度聞き取れるようになり、なんとか片言の英会話でコミュニケーションを取れるようになってきた頃から段々と現地での生活が楽しくなってきた。その中でも最も楽しい時期が5月から夏休みにかけてである。一般的にアメリカの高校は6月の第一週に学年度を終え、約2か月半の長い夏休みに入る。休みの間はただ遊び呆ける者も沢山居るが、世界一高額と言われる大学の学費を稼ぐ為に一生懸命アルバイト

に励む者もいる。私は外国人留学生ということで合法的な労働が認められずアルバイトをすることは出来ず、夏休みは日本に帰国してすごしたのが1年目及び2年目の夏休み。3年目は帰国せずサマースクールに通った。そして、4年目は当然ながら卒業の年である。

高等学校の卒業式は一般的に6月第一週にあり、その少し前に高校4年生のシニアが主役であるプロムと呼ばれるダンスパーティーが開催される。アメリカの高校では新学期である秋にホームカミングと呼ばれるダンスパーティーも含めた大きなイベントも開催されるが、殆どの生徒、特に女子生徒にとってはプロムが最も大切に楽しみにしている卒業前の一大イベントである。基本的には卒業予定のシニア（12年生）が主役ではあるが、ジュニア（11年生）も参加することが出来、その他の学年はシニアかジュニアどちらかの生徒から誘われたい限りは参加出来ない。プロムには同伴する相手がいないと参加できないので、付き合っているパートナーが居らず気が早い生徒は年が明けて2学期が始まると同伴相手を探し始める。普段はあまり誘われことのない男子生徒もプロムの時だけは別で、私もこの時期には数人の友人や友人の姉妹等から誘われた。必ずしも好意を持っている相手であるわけ



ではなく、普通に仲のよい友人であったり相手が居ないので誘われたりと人それぞれ事情は違ってくる。

基本的に服装は女子生徒がドレスで男子生徒はタキシードを着用する。女性はドレスを購入するケースが多かったように記憶していますが、男子生徒は一般的にはタキシードをレンタルします。その為、プロムの同伴相手が決まるとまずは女子生徒のドレスを決めてもらい、その後男子生徒のタキシードを選ぶ。一般的にはネクタイやジレの色を女子生徒のドレスと合わせることが多い為、この順番になるのである。私の場合は彼女のドレスがブルーだったので、ブルーのネクタイとカマーバンドを選択した。

当日は金曜日で普通の登校日である為、放課後帰宅してから急いで準備にかかります。シャワーを浴びてタキシードに着替えいざ出発ですが、出発前には普段とは全く違ういで立ちの我が子の姿を両親が嬉しそうに撮影します。そして、女子生徒宅へ迎えに行き改めてご対面となり男子生徒は女子生徒にコサージュと呼ばれる腕飾りを、女子生徒はブートニアと呼ばれるジャケットのボタンホール若しくはポケットに付けるコサージュを交換した後に2人若しくはグループで食事に出かける。大抵の場合は普段よりもぐんと背伸びして高めのレストランに行く場合が多く、私の場合ジュニアの年は古い邸宅を改装した川沿いのレストランへ、シニアの時は彼女が用意してくれた手作りの料理を彼女の自宅で楽しんだ。

食事を終えるとパーティー会場へ向かいます。地方の高校では体育館や講堂を使うのが一般的だが、人数の多い高校になると学校外の施設を借りる場合も多いようです。会場内部はまさにアメリカ映画で見ると言えるような装飾が施され、雇われたDJが流行りのものから定番のヒット曲をプレイする中、同伴者だ

けでなく仲の良い友達とも一緒に踊ったり、ドリンクを飲みながら会話を楽しんだりして過ごします。そうして夜が更けていき、うる覚えですが23時頃にお開きだったと記憶しています。その後は帰宅したりホームパーティーに行ったりと様々です。

こうしてプロムが終わってしばらくすると5月下旬から6月上旬にかけて Commencement と呼ばれる卒業式が行われるのですが、アメリカの高校の卒業式も日本に比べると一大イベントで、特に卒業式後に開催されるパーティーは地元学区やPTAが卒業生の為に会場の準備からパーティーのプログラムまで全て行ってくれる至れり尽くせりのイベントである。そこで私達は持ち物検査を受けて（アルコール類の持ち込みを防ぐため）から会場入りしてそこで同級生一同が揃う最後の夜を仲間と楽しく過ごして4年間の高校生活に区切りをつけることになる。

私は4年間のアメリカ留学の中で、4年生が最も楽しく最も思い出深い年であった。この高校4年生はとても特別な年であり、アメリカの学生生活の中では最も思い出に残る大切なイベントが多々開催される。今年2020年の卒業生も普通の高校生のように楽しみに準備をしていたであろうこれらのイベントがことごとくキャンセルとなり、4年間の高校生活を共に過ごした同級生と一緒に過ごす最後の思い出を作る機会無く、高校を卒業してしまうことが非常に残念でならない。

この原稿が掲載される頃にはこの世界的コロナ禍が収束に向かっていることを強く願わずにいられない。そうなる他人を思う心が強いアメリカ人は、2020年の卒業生の為に思い出作りの機会を時期が遅れてでも開催してくれるものと信じている。

—やまもと まさと ヤマトロックマシン(株)—